

5.4 他学部および他機関との共同行事

(1) 物質生命化学科

1) オープンキャンパス

小中高校生から一般の市民の方々に対して、学科・研究室を公開するオープンキャンパス行事を行った。具体的には、熊本大学主催の学部・学科紹介と研究室公開(高校生対象:8月7日、参加者:約130名)、“夢科学探検”、“工学部探検”(一般市民対象:11月3日)を実施し、数多くの参加者を得た。“夢科学探検”、“工学部探検”では、様々な演示実験を行って、小学生・幼児から一般の方々までの幅広い層の方々に化学実験を体験していただいた。

2) SSH(スーパーサイエンスハイスクール)協力校としての取組

SSHに指定された熊本県立第二高等学校の協力校として、12月12日に同校2年生の理数科および普通科・36名を対象に体験学習を実施した。「糖とDNAの分子化学」というテーマで、遺伝子診断に応用可能なDNAの分子化学とコンピュータグラフィクスによる分子の振る舞いの観察、およびセルロースなどのバイオマス資源利用のための亜臨界水糖化やバイオエタノール生産への応用に関する実験および講義を行った。

3) 熊本市公民館での化学教室の開催

熊本市花園公民館において、「わくわく科学教室」を平成21年6月から平成21年11月にかけて5回実施した。本学科各研究室の教員と学生の指導によって、各回約20名の小学生に2時間程度化学実験を体験してもらった。今回で7年目となるイベントであり、参加していただいた児童、保護者には毎年たいへん好評であったが、ここで一旦休止し、地域貢献の別の形態を検討することとした。

(2) マテリアル工学科

1) 国立科学博物館「大学サイエンスフェスタ」

平成21年11月20~29日 国立科学博物館

熊本大学創立60周年記念事業の1つとして、11月20~29日に、国立科学博物館(東京・上野)の「大学サイエンスフェスタ」において熊本大学の紹介を行った。その展示のなかで、現在、熊本大学を代表する研究の一つである「KUMADAI マグネシウム合金」のコーナーを開設し、KUMADAI マグネシウム合金について専門的な説明だけでなく、一般の方にも分かるように公開実験を行った、そこでは、マグネシウムの”軽さ”を表現するために、マグネシウム製とアルミニウム製の新幹線模型を走行させ、スピードと消費電力の違いの展示を行った。また、マグネシウム、アルミニウム、チタン、鉄の4種類のダンベルを使った体験コーナーも用意し、子供から大人まで多くの方に楽しめる展示を行った。期間中は、一般の参加者に加えて多数の在京の卒業生の参加があった。

2) 2010 くまもと産業ビジネスフェア

平成22年2月4~5日 グランメッセ熊本

毎年開催されている「くまもと産業ビジネスフェア」において、上記の大学サイエンスフェスタと同様の展示を行った。本フェアでは、展示の他に、「KUMADAI マグネシウムの魅力」と題したミニセミナーを行った。またあわせて、「マグネシウムシンポジウム 2010in 熊本」を実施し、「地域が拓くマグネシウム産業」と題して講演会を実施し

た。本フェアには2日間で約 9000 人の来場があった。

3) 第二高校 SSH (スーパーサイエンスハイスクール)

「マテリアルの強さと組織の関係を調べてみよう！」

趣 旨 (原文まま)

我々の身の回りは様々な材料で満ちあふれています。特に”金属”は包丁、飲料缶からタンカーや長大橋のような大型構造物に至るまで、その用途は実に様々です。これは、用途に合わせて材料の強さや硬さを変化させる(制御する)ことができるからです。今回の実習では、このような機械的性質に影響する因子の中で、特に”結晶粒”に着目して調べます。結晶粒とは、人間の体をかたち作る”細胞”のようなものです。ここでは、(1)材料組織の観察手法、(2)材料強度の評価法の基本を学び、材料の強さと結晶粒の関係について考えてみます。

日時 平成 21 年 12 月 12 日(土)9:00~15:45

場所 工学部 研究棟 I 308 教室

参加学生数 13 名

対応教員およびティーチングアシスタント学生:教員 5 名(高島・連川・大津・森園・松田光) TA 2 名

内容

1. 講義「マテリアル入門」(60 分)
2. 実験「金属の強さを調べてみよう！」(105 分)
3. 実験「金属の組織を見てみよう！/金属が壊れた跡を見てみよう！」(90 分)
4. 講義「本日のまとめ/マテリアルの未来/理数学生応援プロジェクト PR/アンケート」(60 分)

4) 環黄海域国際マグネシウムシンポジウム (YSR4)

本年度、科学技術振興調整費 アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進として、「国際共同研究の推進:先進 Mg 合金開発に関する東アジア連携の構築」(代表:高島和希教授)が採択された。このプロジェクトは、中国、韓国、台湾の研究機関と協力し、マグネシウム合金の先進技術開発を基盤として、東アジアにおける研究の国際連携と人材育成を行うものである。その一環として、11 月に「The 4th Pan-Yellow Sea Rim International Symposium on Magnesium Alloys」を熊本大学で開催し、国際共同研究のための覚書(MOU)締結の調印式を行った。

5) 「高性能Mg合金創成加工研究会」定期講演会の開催

産学官連携を目指して平成 15 年 6 月に発足した「高性能 Mg 合金創成加工研究会」を、熊本大学工学部マテリアル工学科、機械システム工学科、物質生命化学科、および衝撃・極限環境研究センターの教員からなる拠点形成研究 B「環境軽負荷を目指した次世代マグネシウム合金の創製加工」の協力を得て運営を継続し、平成 21 年度は 5 回の定期講演会を様々な分野から講師を招き行なった。本研究会は、高性能Mg合金の創成とその有効利用法を創出するために、最先端の研究動向調査を行うとともに、高強度高靱性材料の開発とその加工利用法の開発について相互に情報交換・研鑽を重ねて、熊本および九州地区をわが国におけるMgものづくりセンターへ発展させることを目的としているが、国内の産学官連携のみならず、環黄海域国際交流・連携も推進している。H21 年度の研究会活動を以下に示す。毎回、企業、大学、公的研究機関、協会・組合、行政関係などから 60 名以上の参加者を集めている。

第 31 回高性能 Mg 合金創成加工研究会講演会

「マグネシウム合金の鑄造技術」

日 時： 2009 年 6 月 26 日(金) 13:00-17:10

場 所： 熊本大学黒髪南キャンパス, 工学部管理棟 I 1 階電数講義室

講演会プログラム

「JST 地域結集型研究開発プログラムの進捗状況」 熊本大学 河村能人氏

「熊大が進めている先進 Mg 合金開発に関する東アジア連携」 熊本大学 高島和希氏

「マグネシウム合金の鑄造技術」 日本マグネシウム協会 杉浦泰夫氏

「STHD グループにおけるマグネシウム半連続鑄造の取り組み」 三協マテリアル 花木悟氏

「電磁振動プロセスによる高機能金属材料の創製技術の開発」 産業技術総合研究所 三輪謙治氏

「安全講習 DVD『マグネシウムの火災とその消火』の紹介」 高性能 Mg 合金創成加工研究会

第 32 回高性能 Mg 合金創成加工研究会講演会

「マグネシウム合金の変形挙動に関する実験観察と数値解析」

日 時： 2009 年 9 月 3 日(木) 13:30-17:10

場 所： 熊本大学黒髪南キャンパス

講演会プログラム

「最密六方型結晶に生ずるすべりと双晶変形に関するモデリングと数値解析の試み」 北見工業大学 大橋鉄也氏

「マグネシウムの疲労破壊と双晶変形」 熊本大学 安藤新二氏

「最密六方晶金属の冷間圧縮塑性挙動」 岡山大学 清水一郎氏

「長周期積層構造相を含むマグネシウム合金における不均一変形と組織」 九州大学 森川龍哉氏

「結晶塑性モデルによる純マグネシウムの多結晶挙動解析」 佐賀大学 只野裕一氏

第 33 回高性能 Mg 合金創成加工研究会講演会

「東アジアにおけるマグネシウム合金の研究開発動向」

第 4 回環黄海 Mg 合金国際シンポジウム YSR-IV

日 時： 2009 年 11 月 12-13 日(木、金)

場 所： 熊本大学黒髪南キャンパス, 工学部百周年記念館

講演会プログラム

“Research and Development of Mg Alloys in Kumamoto University and Future Prospective of International Collaboration with East Asian Countries” Prof. Kazuki Takashima

他、口頭発表 20 件、ポスター発表 31 件

第 34 回高性能 Mg 合金創成加工研究会講演会

「世界に羽ばたけ！ KUMADAI マグネシウム合金」

熊本大学設立 60 周年記念シンポジウム

日 時： 2009 年 11 月 25 日(水)

場 所： 国立科学博物館(東京・上野)

講演会プログラム

「【特別講演】日本におけるマグネシウム合金の研究開発動向」 経済産業省 田端祥久氏
「【特別講演】自動車の軽量化とマグネシウム合金への期待」 日産自動車株式会社 久村春芳氏
「KUMADAI マグネシウム合金の誕生秘話」 熊本大学 河村能人氏
「KUMADAI マグネシウム合金の航空機への応用 - 次世代航空機用構造部材創製・加工技術開発プロジェクト」 三菱重工業 関川貴洋氏
「KUMADAI マグネシウム合金の製造基盤技術開発 -JST 地域結集型研究開発プログラムプロジェクト」 熊本大学 瀬戸英昭氏
「熊本大学のマグネシウム専門家集団 - 熊本大学拠点形成研究プロジェクト」 熊本大学 里中忍氏
「KUMADAI マグネシウム合金で産学官交流- 高性能 Mg 合金創成加工研究会」 熊本大学 安藤新二氏
「世界に羽ばたくKUMADAI マグネシウム合金 - 先進 Mg 合金開発に関する東アジア連携構築プロジェクト」 熊本大学 高島和希氏

第 35 回高性能 Mg 合金創成加工研究会講演会

「マグネシウムシンポジウム 2010 in 熊本」

日 時: 2010 年 2 月 5 日(金)

場 所: グランメッセ熊本

講演会プログラム

「自動車部品におけるマグネシウム合金の適用と課題」 日産自動車株式会社 櫻井寛氏
「三井金属におけるマグネシウムダイカスト製品への取り組み」 三井金属鉱業株式会社 二宮隆二氏
「新潟県におけるマグネシウム合金開発と製品化への取り組み」 (財)にいがた産業創造機構 宮下孝洋氏
「茨城マグネシウム工業会が世界を変える」 茨城マグネシウム工業会 宮本隆氏
「兵庫県の取り組み」 兵庫県立但馬技術大学校 椿野晴繁氏
「熊本県の取り組み」 熊本県商工観光労働部 竹上嗣郎氏

(3) 機械システム工学科

1) 「バイオマス・ニッポン in 熊本 エネルギーの地産地消・地域循環を目指して」

九州地域バイオマス関係機関連絡会議、九州バイオマス発見活用協議会、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構九州支部との共同で、11月17日、熊本市国際交流ホールにおいて表記行事を行った。来場者は200名を数えた。

2) 熊本第二高校スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

日時:平成 21 年 12 月 12 日(土)9:00~16:00

実施場所:工学部研究棟 I および工学部実験棟

参加生徒数:15 名

担当者:佐田富教授、川原准教授、有吉技術職員、TA 2 名

本学科の佐田富教授と川原准教授が考案した流体混合装置は、高圧の液体を供給すれば気体を自動的に吸引し微細化してマイクロバブルを作ることができ、逆に高圧の気体を供給すれば液体を自動的に吸引し微細化してミスト(細霧)を作ることができる。その作動原理をエネルギーの保存式を用いて説明すると共に、発生したマイクロバブルやミストの産業上の応用性を確認するために行った水への気体の溶解や気化冷却等の実験を紹介した。その後、多流体混合装置の製作体験を行い、実際にマイクロバブルやミストを発生する実験を行った。

(4) 社会環境工学科

「土木の日」・「くらしと土木の週間」

社会環境工学科では、H17年度から熊本大学地域連携事業の一環として、社会基盤整備への理解を深め新しい広報と教育のあり方を論じ、実践するものとして、「土木の日」熊本実行委員会(委員長 溝上教授・幹事長 重石光弘准教授)等での活動を通じて、生活の営みを支えてきた基盤技術である土木環境工学の学術専門的な立場から、社会基盤整備事業の市民への理解と、今後の社会基盤整備事業への合意形成を図ろうとする各種団体(上記、連携先)の取り組みとの連携活動を行った。

「土木の日」熊本実行委員会による地域行事に主催者として参加した団体は、熊本大学、東海大学、崇城大学、八代工業高等専門学校、国土交通省熊本河川国道事務所、国土交通省熊本港湾・空港整備事務所、国土交通省立野ダム工事事務所、日本道路公団、熊本県、熊本市、熊本県技術士会、九州電力(株)熊本支店、(社)熊本県建設業協会、九州旅客鉄道(株)熊本支店、NTTインフラネット(株)熊本支店、(社)熊本県測量・設計コンサルタンツ協会、(社)熊本県建設コンサルタント協会、(社)熊本県地質調査業協会であり、さらに(独)鉄道建設・運輸施設整備機構、熊本県新幹線熊本駅周辺整備事務所、熊本市都市建設局熊本駅周辺整備事務所の協力と、(社)九州建設弘済会からの協賛を得ている。

1) 「くらしと土木の週間」記念行事

「第3回新幹線工事現場見学&わたしたちが考える熊本駅の未来ワークショップ」

(平成 21 年 11 月 1 日:JR熊本駅及び新幹線建設現場) / 担当 溝上教授, 重石准教授, 星野准教授)

県内の土木建設業関連の団体によって構成される「土木の日」熊本実行委員会による「くらしと土木の週間」記念行事として、新幹線建設現場見学及びJR熊本駅前にてバリアフリーや公共空間デザインに関するレクチャーに親子で参加し、その後 JR 熊本支社の会議室において「これからの熊本駅を考える」ワークショップを実施した。さまざまな参加者から、熊本駅や熊本のまち、安心・安全なくらし、これからの土木界に関する意見が提案された。本学科からも、教員、学生の主体的な取り組みがなされた。

2) 嘉島町立嘉島東小学校での出前授業(平成 21 年 10 月 3 日) / 担当 重石准教授・川越准教授

「くらしと土木の週間」記念行事の一つとして、本事業と同校の 5 年生 PTA との連携による学年行事とし、熊本大学工学部技術部、および国土交通省の支援を得て、教員と学生が直接的に児童向けの出前授業や実験を実施した他、降雨体験車による体験型防災授業を行った。

3) 「土木の日」絵画・写真コンクール(表彰式:平成 21 年 10 月 3 日)

/ 担当 溝上教授・重石准教授

「くらしと土木の週間」記念行事の一つとして、熊本県土木部土木技術管理室との共同作業にて、次の世代を担う小学生および中学生からの「土木」をテーマとする絵画、高校生および大学生からの「暮らしを

支える身近な土木施設」をモチーフとする写真の募集を実施し、優秀作品に対して表彰を行った。

4) ～熊本大学 星野工学博士と行く～平成21年度土木遺産探訪バスツアー

(平成21年11月14日) / 担当 星野准教授

「くらしと土木の週間」記念行事の一つとして、熊本市土木総務課との共同作業にて、公募による一般市民を対象とした「土木施設」と「土木遺産」の見学バスツアーを行った。本年度は、(旧)八勢眼鑑橋、(旧)山屋の隧道、通潤橋と円形分水、(新)千滝川橋架橋現場、(新)大平・河内トンネル工事現場といった新旧の橋梁およびトンネルを巡った。

(5) 建築学科

1) 第9回廃棄物再資源化研究会活動報告会

(日時:平成21年5月22日、場所:工学部百周年記念館、担当:村上、武田)

廃棄物再資源化研究会は、一般及び産業廃棄物を対象に、主として建設分野において実用的な再資源化を図ることを目的に活動している。報告会では、年間研究活動成果報告、特別講演、成果品の展示を含む活動成果報告会を開催し、一般市民を対象に参加費無料で一般公開している。参加者は約150名前後であり、一般市民や熊本大学工学部建築学科の特別講義や大学院プロジェクトゼミナールの特別講演として学生へのリサイクルの啓蒙活動も兼ねている。

2) 第二高校スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の受入実施

テーマ 『架構と空間を作る』

熊本市の県立第二高校から事業の依頼があった。参加した高校生に、学科の内容、建築の構造、建築デザインの方法について、午前中約30分ずつ講義を行ない、「ペットボトル・タワー」と題して、1.5リットルのペットボトルに水を満たし、これを竹ヒゴ、模型用細木材、ゴムバンド、糸などによって作った構造物で支えたタワーを作るという具体的な製作課題をあたえて、できた作品について最後に皆で好評会を行なった。

- ・日時: 2009年12月12日(土)
- ・参加者: 県立第二高等学校2年生30名
- ・場所: 熊本大学工学部(1号館)
- ・担当: 伊東龍一教授、岡部猛准教授、大西康伸助教
- ・内容
 - 9:00～9:30 建築学・建築学科の紹介 (伊東)
 - 9:30～9:45 課題「ペットボトル・タワー」の説明(大西)
 - (休憩)
 - 10:00～10:30 建築構造について (岡部)
 - 10:30～11:00 建築デザインの方法 (大西)
 - 11:00～12:00 課題「ペットボトル・タワー」
各チームでスタディ(検討・試作等)
 - (昼食)
 - 13:00～15:00 各チームで制作
 - 15:00～15:30 講評会

(6) 情報電気電子工学科

1) 熊本県立熊本西高等学校SPP（サイエンスパートナーシッププロジェクト）

- ・ 日時:2009年7月10日(金)13:50ー
- ・ 場所:熊本西高等学校 物理教室
- ・ 内容:「パルスパワー技術について」に関する講義
- ・ 参加生徒数:熊本県立熊本西高等学校 2年1組 36名
- ・ 担当者:浪平隆男

2) 熊本県立熊本西高等学校SPP（サイエンスパートナーシッププロジェクト）

- ・ 日時:2009年8月18日(火)09:30ー
- ・ 場所:熊本大学黒髪キャンパス南地区 工学部2号館231講義室
- ・ 内容:「パルスパワー技術について」に関する実習
- ・ 参加生徒数:熊本県立熊本西高等学校 2年1組 36名
- ・ 担当者:浪平隆男

3) 熊本県立熊本西高等学校SPP（サイエンスパートナーシッププロジェクト）

- ・ 日時:2009年9月17日(木)13:50ー
- ・ 場所:熊本西高等学校 物理教室
- ・ 内容:「パルスパワー技術について」に関する発表会
- ・ 参加生徒数:熊本県立熊本西高等学校 2年1組 36名
- ・ 担当者:浪平隆男

4) 熊本県立大津高等学校 SPP（サイエンスパートナーシッププロジェクト）

- ・ 日時:2009年7月25日(土)、7月28日(火)、8月1日(土)
- ・ 場所:大津高等学校物理教室、熊本大学(黒髪)総合研究棟多目的会議室
- ・ 内容:電子部品・ラジオ・アンテナ・太陽電池に関する原理の学習及び製作・測定実習
- ・ 参加生徒数:熊本県立大津高等学校 理数科1年 40名
- ・ 担当者:松島 章、周山大慶

5) 九州パワーアカデミー研究部会第1回シンポジウム

- ・ 日時:2010年1月26日(火)14:30ー
- ・ 主催:九州パワーアカデミー
- ・ 共催:熊本大学九州電力寄附講座「電力フロンティア講座」
- ・ 場所:熊本大学工学部百周年記念館
- ・ 内容:「低炭素社会に貢献する電気技術」と題し、講演およびパネルディスカッション
- ・ 参加者数:約100名
- ・ 担当者:檜山 隆、宮内 肇

6) 半導体量産地域イノベーションのための熊本大学シンポジウム

- ・ 日時:2009年5月13日(水)

- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学工学部百周年記念館
- ・ テーマ:半導体最先端を走る企業戦略と製品開発
- ・ 参加者数:125名
- ・ 担当者:久保田 弘

7) 公開セミナー

- ・ 日時:2009年7月4日(土)・18日(土)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学黒髪南地区衝撃・ベンチャー棟3階セミナー室
- ・ テーマ:半導体製品開発・設計
- ・ 参加者数:16名
- ・ 担当者:久保田 弘

8) 半導体量産地域イノベーションのための熊本大学シンポジウム

- ・ 日時:2009年7月17日(金)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学黒髪南地区工学部2号館 223 教室
- ・ テーマ:次世代ナノエレクトロニクスのための プロセス技術創出への挑戦
- ・ 参加者数:60名
- ・ 担当者:久保田 弘

9) 公開講義

- ・ 日時:2009年8月21日(金)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学黒髪南地区衝撃・ベンチャー棟3階セミナー室
- ・ テーマ:光デバイス特論
- ・ 参加者数:9名
- ・ 担当者:久保田 弘

10) 公開セミナー

- ・ 日時:2009年9月19日(土)・10月17日(土)・11月7日(土)・12月5日(土)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学黒髪南地区衝撃・ベンチャー棟3階セミナー室
- ・ テーマ:半導体プロセス開発・工程設計

- ・ 参加者数:16名
- ・ 担当者:久保田 弘

11) (新)半導体プロセス研究会第1回研究会

- ・ 日時:2009年10月15日(木)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本テルサ3階たい樹
- ・ テーマ:革新的半導体量産技術の未来像の構築に向けて
- ・ 参加者数:59名
- ・ 担当者:久保田 弘

12) インターンシップ報告会

- ・ 日時:2009年10月30日(金)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:MDTI 泗水工場
- ・ テーマ:プロセス技術動力/薬供/排出、等工場システム
- ・ 担当者:久保田 弘

13) 公開講義

- ・ 日時:2009年11月28日(土)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学黒髪南地区衝撃・ベンチャー棟3階セミナー室
- ・ テーマ:光デバイス特論
- ・ 参加者数:14名
- ・ 担当者:久保田 弘

14) 公開講義

- ・ 日時:2009年11月29日(日)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学黒髪南地区衝撃・ベンチャー棟3階セミナー室
- ・ テーマ:光デバイス特論
- ・ 参加者数:14名
- ・ 担当者:久保田 弘

15) 公開セミナー

- ・ 日時:2010年1月27日(水)

- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:ルネサス九州セミコンダクタ
- ・ テーマ:プロセス技術開発と維持管理
- ・ 参加者数:11名
- ・ 担当者:久保田 弘

16) 第9回半導体量産地域イノベーションのための熊本大学シンポジウム

- ・ 日時:2010年1月29日(金)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学工学部百周年記念館
- ・ テーマ:ユビキタス時代の最先端液晶ディスプレイの開発
- ・ 参加者数:120名
- ・ 担当者:久保田 弘

17) 第9回半導体量産地域イノベーションのための熊本大学シンポジウム公開セミナー

- ・ 日時:2010年1月29日(金)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学黒髪南地区インキュベーション施設 1Fリエゾン会議室
- ・ テーマ:液晶セミナー
- ・ 参加者数:29名
- ・ 担当者:久保田 弘

18) 公開セミナー

- ・ 日時:2010年1月29日(金)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:東京エレクトロン九州 合志事業所
- ・ テーマ:プロセス技術開発
- ・ 参加者数:13名
- ・ 担当者:久保田 弘

19) 半導体量産地域イノベーションのための熊本大学シンポジウム

- ・ 日時:2010年2月26日(木)
- ・ 主催:超兆集積拠点研究
- ・ 共催:(新)半導体プロセス研究会、情報電気電子工学専攻、衝撃・極限環境研究センター
- ・ 場所:熊本大学工学部2号館 223 教室
- ・ テーマ:プロセス技術開発

- ・ 参加者数:50名
- ・ 担当者:久保田 弘

20) オープンキャンパスおよび研究室公開

- ・ 内容:小中高校生から一般の市民の方々を対象に、学科・研究室を公開する。
- ・ 日時:2009年8月7日(金) オープンキャンパス工学部研究室公開
- ・ 日時:2009年11月1日(日) 夢科学探検

(7) 数理工学科

(理学部理学科数学コースと共同)

1) 熊本確率論セミナー

実施日時: 2009年11月25日

開催場所: 熊本大学工学部数理工学科 数理工学科棟2階(会議室)

講師: 福島正俊 氏(大阪大学名誉教授)

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名

2) 熊本確率論セミナー

実施日時: 2010年2月15日

開催場所: 熊本大学工学部数理工学科 数理工学科棟2階(会議室)

講師: 福島正俊 氏 (大阪大学名誉教授)

上村稔大 氏 (関西大学)

塩沢裕一 氏 (岡山大学)

対象者: 研究者・大学院生

参加人数: 10名